資 料 4

平成３１年産米の県の「生産の目安」(案)について

平成３０年１２月６日

1　算定方法

本県の「生産の目安」は、「全国生産量と県産米シェアから算出した数値」と「需給動向と適正在庫量から算出した数値」の中間値を基本とし、必要に応じて「直近の販売状況を踏まえた補正」を行って設定することとする。

2　算定に用いる数値

(1) 県産米シェア率

全国需要量に占める県産米のシェア率は、平成23～29年の７中５平均で算出。

単位：トン、％

年　産	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	平　均
全　国	8,132,739	7,811,000	7,866,000	7,825,000	7,662,000	7,540,000	7,396,000	－
秋田県	450,496	403,815	440,402	412,193	470,654	413,615	399,388	－
シェア率	5.5393	5.1698	5.5988	5.2676	6.1427	5.4856	5.4001	5.4583
算出採用	○	×	○	○	×	○	○	

(2) 適正在庫量

６月末の県産米の適正在庫量は、国が「安定供給が可能な水準」とする全国在庫量180万トンに県産米シェア率を乗じた10万トンを下限とし、県産米の価格が安定すると見込まれる12万トンを上限として、この範囲にある場合は、在庫量を維持できるよう「生産の目安」を設定し、適正範囲を外れている場合は、期末在庫量が適正範囲内となるように「生産の目安」を設定する。

(3) 主食用米の需要量

全国需要量（国によるトレンド推計：平成30年11月末基本指針より）

① 平成8/9年～平成29/30年の１人当たり消費量を算出

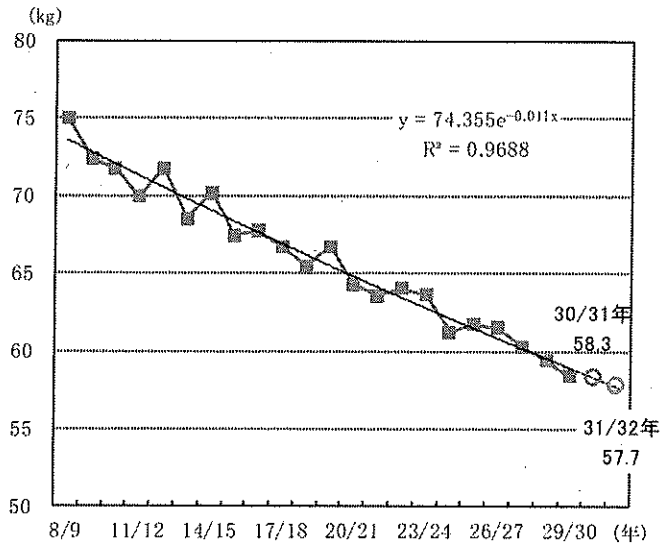
年	需要実績 ①	人口 ②	1人当たり消費量 ①/②
	万トン	千人	kg
8/9	943.8	125,859	75.0
9/10	912.9	126,157	72.4
10/11	907.3	126,472	71.7
11/12	885.9	126,667	69.9
12/13	911.5	126,926	71.8
13/14	872.1	127,316	68.5
14/15	894.7	127,486	70.2
15/16	861.6	127,694	67.5
16/17	865.4	127,787	67.7
17/18	851.7	127,768	66.7
18/19	837.5	127,901	65.5
19/20	854.5	128,033	66.7
20/21	823.6	128,084	64.3
21/22	814.1	128,032	63.6
22/23	820.0	128,057	64.0
23/24	813.3	127,834	63.6
24/25	781.1	127,593	61.2
25/26	786.6	127,414	61.7
26/27	782.5	127,237	61.5
27/28	766.2	127,095	60.3
28/29	754.0	126,933	59.4
29/30	739.6	126,706	58.4

注：人口は、総務省「人口推計」の各年10月1日現在の値である。

② 平成30/31年及び平成31/32年の１人当たり消費量の算出

（単位：kg）

年	x	1人当たり消費量(y)	
8/9	1	75.0	
9/10	2	72.4	
10/11	3	71.7	
11/12	4	69.9	
12/13	5	71.8	
13/14	6	68.5	
14/15	7	70.2	
15/16	8	67.5	
16/17	9	67.7	
17/18	10	66.7	
18/19	11	65.5	
19/20	12	66.7	
20/21	13	64.3	
21/22	14	63.6	
22/23	15	64.0	
23/24	16	63.6	
24/25	17	61.2	
25/26	18	61.7	
26/27	19	61.5	
27/28	20	60.3	
28/29	21	59.4	
29/30	22	58.4	
30/31	23	58.3	（推計値）
31/32	24	57.7	（推計値）



③ 平成30/31年及び平成31/32年の１人当たり消費量（推計値）に平成30年及び平成31年の人口（推計値）を乗じて需要見通しを算出

	30/31年	31/32年
1人当たり消費量（推計値） ①	58.3kg	57.7kg

	30年	31年
人口（推計値） ②	126,351千人	125,946千人

	30/31年	31/32年
需要見通し ①×②	736.4万トン	726.3万トン

注：人口（推計値）は、「人口推計（総務省平成30年4月公表）」の総人口に、「日本の将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所平成29年4月公表）」の総人口（出生中位・死亡中位推計）平成29年から平成30年まで及び平成29年から平成31年までの人口減少率をそれぞれ乗じて算出した値。

735万トン

※平成30/31年の需要量については、30年産米の相対取引価格が前年産より上昇している影響を考慮し、推計値の736万トンから１万トン低い735万トンと見通されている。

3　平成31年産米の県の「生産の目安」の算出

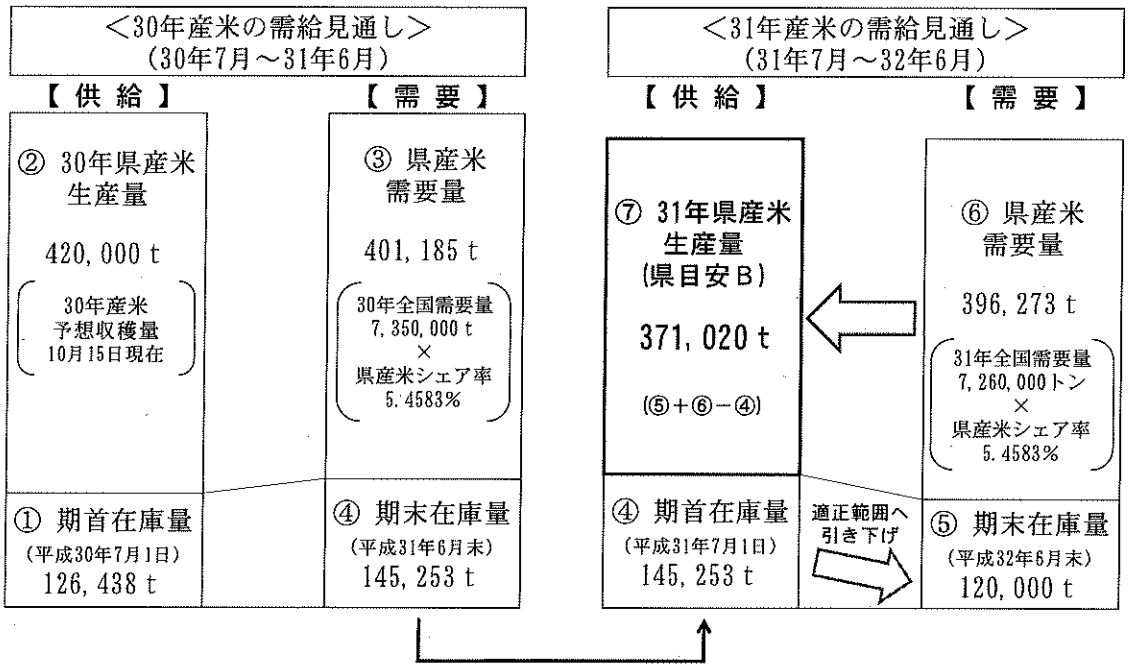
(1) 全国生産量と県産米シェアから算出した数値（県目安Ａ）

①31年産米全国生産量（30年11月末基本指針）	②31年産米県目安Ａ（①×県産米シェア5.4583%）
7,220,000トン	394,089トン

※平成31年産米の全国生産量については、718～726万トンの幅を持って設定されているため、中間値の722万トンを使用する。

(2) 需給動向と適正在庫量から算出した数値（県目安Ｂ）

31年産の全国需要量の推計値から求められる県産米の需要量、30年産米の予想収穫量、適正在庫量から算出。



(3) 県目安ＡとＢの中間値の算出

県目安Ａ	県目安Ｂ	中間値（Ａ＋Ｂ）÷２
394,089トン	371,020トン	382,555トン

(4) 直近の販売状況を踏まえた補正

○　中間値（382,555トン）は、従来の生産数量目標管理下での県産米の需要実績に基づいて算出しているため、30年産における集荷業者の販路拡大が反映されておらず、増産分が在庫の増加に直結するかたちになっている。

○　しかしながら、国の基本指針によると、30年産米の需給状況は、全国の需要量735万トンに対し生産量が733万トンと、需給バランスが取れており、在庫が増加する状況にはない。

○　県産米については、事前契約数量が29年産の９万トンから30年産の18万トンへと大幅に拡大しており、取引の確実性が向上していることから、30年産の増産分が在庫になるとは考えにくく、相対取引価格も堅調に推移している。

○　従って、29年産の生産量398,900トンと30年産の420,000トンとの差21,100トンを30年産における販路拡大分とする。

○　また、主要な集荷団体が卸等に対して行った31年産米の需要調査や販売計画を踏まえると、31年産については、30年産から3,400トン程度の需要拡大が見込まれている。

○　こうしたことから、中間値を以下のとおり補正し、31年産主食用米の「生産の目安」を407,000トンと設定する。

◆ 中間値382,555トン＋30年産販路拡大分21,100トン＋31年産販路拡大分3,400トン
＝　407,055トン　≒　407,000トン

平成31年産「生産の目安」（面積換算）	**407,000トン（71,030 ha）**

※　面積換算 ＝ 407,000トン ÷ 県平年単収573kg/10a

【31年産米の「生産の目安」と30年産米・29年産米との比較】

	平成31年産	平成30年産		平成29年産	
	生産の目安（面積換算）	生産の目安（面積換算）	予想収穫量（作付見込面積）	生産数量目標（面積換算）	収穫量（作付面積）
全　国	7,180,000～7,260,000トン	7,350,000トン	7,329,000トン（1,386,000ha）	7,350,000トン（1,387,000ha）	7,306,000トン（1,370,000ha）
秋田県	**407,000トン（71,030ha）**	408,700トン（71,326ha）	420,000トン（75,000ha）	408,644トン（71,317ha）	398,900トン（69,500ha）